

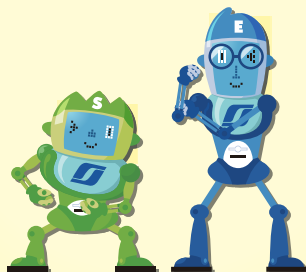
第21期 中間

イーサポートリンク株式会社

株主通信

2017年12月1日—2018年5月31日

食の安心を
広げていきます



証券コード 2493

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第21期中間「株主通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

2018年11月期第2四半期決算の業績につきましては、大手小売量販店へサービス提供している「生鮮MDシステム」は、同社グループへの導入も計画通りに進み、農産、畜産、水産以外のカテゴリーへの導入も進みました。その結果、データ処理件数が前年対比で増加しました。

一方で、輸入青果物サプライチェーンを構成する顧客へ展開している業務受託サービスは、主要顧客が業務委託内容を一部見直したこと等から、前年同期と比較して業務受託量が減少いたしました。

また、りんごの販売強化、有機農産物の仕入先との関係強化や積極的な営業展開により、農産物の販売量が増加いたしました。
これにより、売上高は22億33百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益は29百万円（同35.5%減）、経常利益は25百万円（同47.6%減）、親会社に帰属する四半期純利益は8百万円（同69.2%減）となりました。

なお、通期の業績予想につきましては、当社グループを取り巻く生鮮青果物流通業界が想定以上に変化が激しいため、2018年1月12日に公表しました計画数値を据え置いております。

近年、少子化や高齢化により労働力人口が年々減少し、様々な業界で人手不足という課題が顕著になってきております。当社グループの主たる事業領域である生鮮青果物流通業界においても、生産者をはじめ、中間流通業者、小売業者、外食産業などで人員の確保が困難になってきており、業務の効率化による生産性の向上や働き方改革による労働環境の改善が強く求められております。

このような状況のもと、当社グループは国産青果物流通の環境変化を成長の機会として捉え、バナナなどの輸入青果物で培ったサプライチェーンのノウハウ等を活用し、国産青果向け事業の本格化を推進しています。1つは前期から始めたドラッグストア向けのサービス実証実験の継続と人的投資の拡大、もう1つは、国産青果運用に適したシステムの開発と業務受託体制の構築を最重要課題として注力しています。子会社の有機農産物販売会社についても、仕入先の見直し、物流の改善、販売強化により売上伸長と利益の確保を図っております。

当社は、「すべては生産者と生活者のために」という経営理念のもと、川上から川下までの生鮮流通分野で、情報システムと業務受託という2つのサービスの強みを活かして、事業を拡大してまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

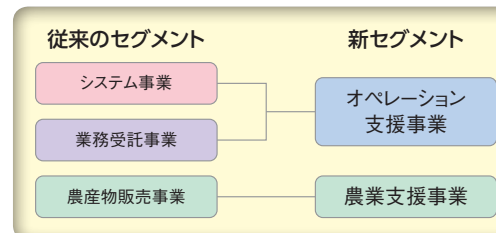


代表取締役社長
堀内 信介

セグメント別概況

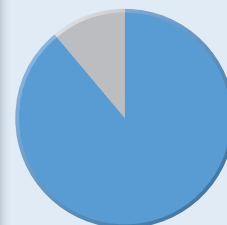
当社グループは、平成30年2月27日付適時開示でご報告の通り、従来の「システム事業」「業務受託事業」の2つのセグメントを集約し、「オペレーション支援事業」とし、「農産物販売事業」を「農業支援事業」と名称変更しており、平成30年11月期第1四半期連結会計期間より適用しております。これに伴い、前々期、前期のセグメント情報について、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

現在、国内の青果物流通は情報社会の発展に伴い、多くの販売チャネルが登場し複雑化する中、IT社会の発展にともない「IoT」「AI」「ビッグデータ」というキーワードを軸に青果物流通の業務の効率化を飛躍的に進めるシステム技術も進化してきております。当社はこうした経営環境の変化に鑑み、これまでのサービスを再編し、次世代のIT技術を取り込んだ効率的なサービスを開発・提供し、企業価値を向上させる事業展開を進めてまいります。



売上高構成比

1,986百万円
88.9%

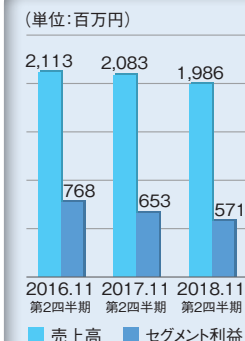


オペレーション支援事業

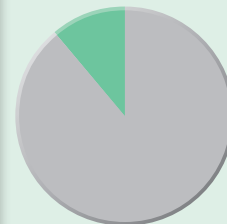
業 況

大手小売量販店へサービス提供している「生鮮MDシステム」は、農産、畜産、水産以外のカテゴリーへ導入を進めております。大手量販店グループ企業への導入も計画通りに進み、データ処理件数が前年対比で増加しました。また、主に農業に新規参入した企業への国産青果向けサービスについても顧客からの取り扱い商品点数の増加等により、システム利用におけるトランザクション量が増加しております。一方で、輸入青果物サプライチェーンを構成する顧客へ展開しているサービスは、主要顧客が業務委託を一部見直したこと等から、前年同期と比較して業務受託量が減少いたしました。
以上の結果、売上高は19億86百万円（前年同期比4.7%減）、セグメント利益は5億71百万円（同12.5%減）となりました。

売上高推移

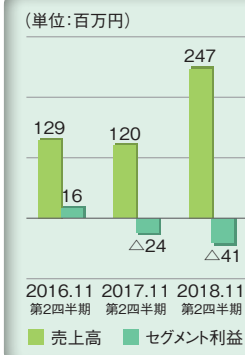


247百万円
11.1%



農業支援事業

りんごの販売強化、有機農産物の仕入先との関係強化や積極的な営業展開により、農産物の販売量が増加いたしました。一方で、先行投資としてドラッグストア向けに進めているサービス実証実験については、導入店舗数は増加しておりますが、引き続きビジネスモデルを検討してまいります。
以上の結果、売上高は2億47百万円（前年同期比104.7%増）、セグメント損失は41百万円（前年同期はセグメント損失24百万円）となりました。

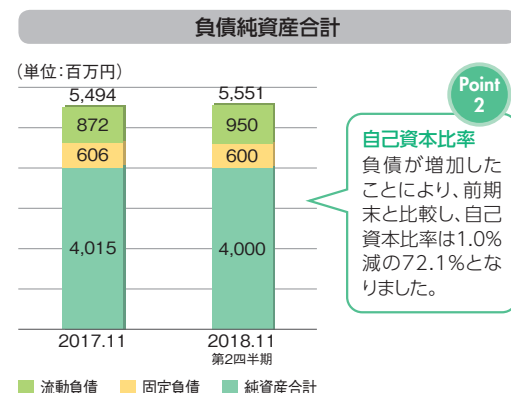
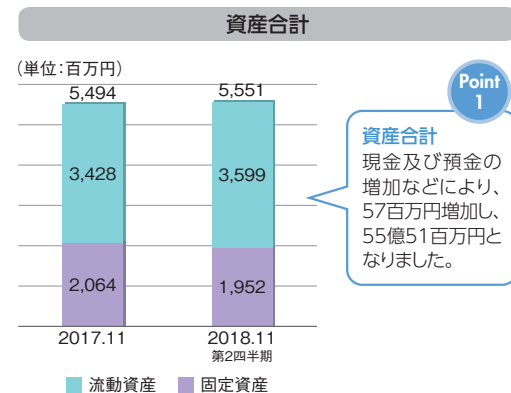


連結財務諸表

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)			
科 目	第 20 期末 2017年11月30日現在	第 21 期 (当第2四半期) 2018年5月31日現在	増減額
資産の部			
流動資産	3,428	3,599	170
固定資産	2,064	1,952	△112
有形固定資産	396	364	△32
無形固定資産	1,184	1,093	△90
投資その他の資産	483	494	10
繰延資産	0	0	△0
資産合計	5,494	5,551	57
負債の部			
流動負債	872	950	77
固定負債	606	600	△5
負債合計	1,478	1,550	71
純資産の部			
株主資本	4,019	4,005	△14
資本金	2,721	2,721	—
資本剰余金	618	618	—
利益剰余金	679	665	△14
自己株式	△0	△0	—
その他の包括利益累計額	△3	△4	△0
純資産合計	4,015	4,000	△14
負債純資産合計	5,494	5,551	57



財政状態に関する分析

資産の部

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末と比べて57百万円増加し、55億51百万円（前連結会計年度末比1.0%増）となりました。内訳としては、流動資産が35億99百万円（同5.0%増）、固定資産が19億52百万円（同5.4%減）、繰延資産が0百万円（同75.0%減）となりました。流動資産の主な増加要因は、現金及び預金が増加したことによるものです。固定資産の主な減少要因は、ソフトウェアが97百万円減少したことによるものです。

負債の部

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末と比べて71百万円増加し、15億50百万円（同4.9%増）となりまし

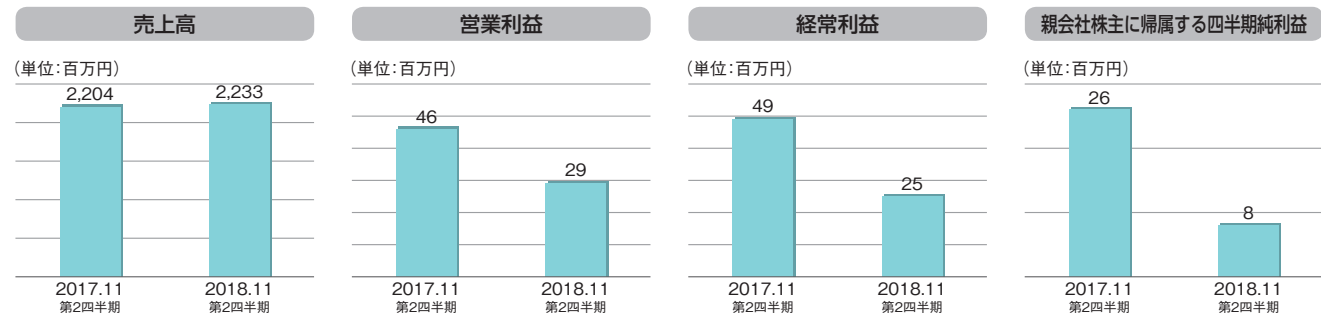
た。内訳としては、流動負債が9億50百万円（同8.9%増）、固定負債が6億円（同0.9%減）となりました。流動負債の主な増加要因は、賞与引当金が1億22百万円増加したことによるものです。固定負債の主な減少要因は、リース債務が32百万円減少したことによるものです。

純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べて14百万円減少し、40億円（同0.4%減）となりました。この結果、自己資本比率は72.1%となりました。その主な減少要因は、利益剰余金について親会社株主に帰属する四半期純利益を8百万円計上した一方、配当により22百万円減少したことによるものです。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)			
科 目	第 20 期 (前第2四半期累計) 自2016年12月1日 至2017年5月31日	第 21 期 (当第2四半期累計) 自2017年12月1日 至2018年5月31日	増減額
売上高	2,204	2,233	29
売上原価	1,213	1,322	109
売上総利益	991	911	△79
販売費及び一般管理費	945	881	△63
営業利益	46	29	△16
営業外収益	9	0	△8
営業外費用	5	4	△1
経常利益	49	25	△23
特別利益	6	—	△6
特別損失	0	—	△0
税金等調整前四半期純利益	56	25	△30
法人税等	34	17	△16
親会社株主に帰属する四半期純利益	26	8	△18



経営成績に関する分析

当社グループは国産青果物流通の環境変化を成長の機会として捉え、バナナなどの輸入青果物で培ったサプライチェーンのノウハウ等を活用し、国産青果向けの事業展開を本格化しております。前期より取り組んでいるドラッグストア向けの新業態開発としてのサービス実証実験についても、事業拡大に向け継続しております。また、子会社の有機農産物販売会社については、仕入先の見直し、物流の改善、販売強化により売上伸長と利益の確保を図っております。

当期は新たに国産青果流通に参入した企業や生産者団体向けにサービスを拡大していくために、国産青果向けのバリューチェーンシステムの

構築を進めるとともに、国産青果流通への受託業務対応の準備を進めております。さらに、海外への事業展開として、フィリピンの一般組合に向けたマイクロファイナンスシステムのサービスを開始するため、現地顧客とシステムテストを始めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は22億33百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益は29百万円（同35.5%減）、経常利益は25百万円（同47.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8百万円（同69.2%減）となりました。

特集 おしえて！イー君・サボ君 国産青果向け事業



イー君。最近、いろいろな会社が人手不足で困っているという話を聞いたけど、イーサポートリンクが関係している生鮮流通業界はどうなんだろうね。僕の友人の実家でも農業やっている人が皆高齢になり、後継者難で耕作放棄地も増えていると聞いたよ。



株式会社スマートアグリカルチャー磐田は、富士通、オリックス、増田採取場の出資により静岡県磐田市に2016年4月に設立された会社で、約5haの栽培施設でトマト、ケール、パプリカなどを生産しているんだ。農業を起点とした地方創生の実現に向けて、デジタルテクノロジーを活用した新しい農業スタイルを目指しているんだよ。

栽培施設の様子



確かに農業の生産者は減少しているようだね。一方で新しい動きもあるよ。サボ君、スマート農業って、知ってる？ 農作物の育成にセンサーやビッグデータなどの ICT を活用して、生産性や品質を高める農業のことなんだけど、異業種から参入して経営的な視点も併せ持って、農業に取り組んでいる企業も増えているらしいよ。僕は、そのような会社の1つである「株式会社スマートアグリカルチャー磐田（以下 SAC）」を見学してきたんだ。同社がイーサポートリンクと取り組んでいることについてもお伝えするよ。



栽培施設の様子



パプリカ収穫の様子



商品加工(リパック)の様子

ICTを活用した大規模、かつ工業製品的な生産管理で、まるで製造工場のように農産物を生産していることに驚いたよ。これは、農業における新たなビジネスモデルの1つだと感じたよ。



生産

- 富士通の食・農クラウド「Akisai 施設園芸 SaaS」による環境制御
- 温度、湿度、日射等のセンサーでハウス内外の環境要素を計測し、農作物の生育に最適な環境になるように、ハウス内の機器を自動運転

生育環境の見える化と最適化



流通(受注、加工、出荷等)

- 「イーサポートリンクシステム Ver.2」によるサプライチェーンの構築・運用 および、業務受託サービスを提供している
- トレーサビリティの実現

流通コストの見える化

卸、小売店など



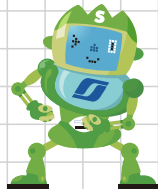
SACでつくった商品



イーサポートリンクシステムで受注、引当、出荷等処理

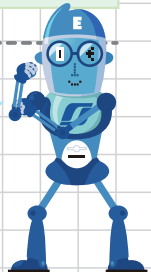


生産後の流行程を当社のシステム提供と業務受託をしているんだよ。クラウド化したイーサポートリンクシステムVer.2を、初めて国産青果流通に対応させた取り組みなんだ。



これからの大規模生産者は、「農作物を作って出荷して終わり」ではなく、データ活用による計画値と実績値を比較してコスト削減策を検討するなど、PDCAサイクルを回すことができるようになるかもしれない。今後10年ぐらいで、農業は大きく変わりそう。SACは市場競争力をもった「儲かる農業」を実践していくための取り組みの1つと言えるね。

農業における「生産管理」のシステム化は多くの企業等が参入しているけど、生産者と実需者をつなぐ日本全国規模をカバーする生鮮流通システム（受注、引当、出荷、請求などの機能）は、イーサポートリンクシステムだけだろうね。生産規模が大きくなるほど、損失のリスクも大きくなるから、大規模生産者は、当社のシステムやサービスを利用して頂ければ、コア業務である生産に特化できるよ。



■ 農場物語



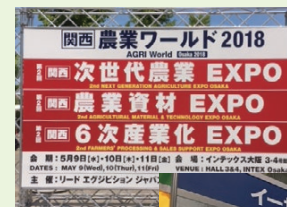
●2018年4月19日 「スマートアグリシンポジウム」

日本農業情報システム協会が主催したスマートアグリシンポジウムで「SNSを活用した農場運営の効率化を目指して」と題して、当社の「農場物語」を紹介し、パネルディスカッションにも参加したんだ。生産者に対し、安価で優良な情報システムやサービスを提供するために、活発な意見交換が行われたようだね。



●2018年5月9日～11日 「関西 農業ワールド2018」

西日本最大の農業総合展『関西 農業ワールド2018』に出展し、「農場物語」のGAP認証取得支援サービス、その他在庫管理機能、入出荷先管理機能等の新機能を中心に紹介したよ。



■ 株式会社オーガニックパートナーズ



●2018年4月11日～13日 「第1回オーガニックフードEXPO2018」



「第1回オーガニックフード EXPO2018 (東京ビックサイト)」に、当社子会社が出展したよ。特に外食や中食業界の方々へ、有機野菜のアピールができ、新しい接点ができたようだね。



●2018年5月20日 「農場ツアー」



当社子会社の農場で主催した「農場ツアー」に、多くの野菜ソムリエの方や顧客など、関係者とその御家族が参加され、有機農産物の生産者との交流会を行ったんだ。農場全体の説明や、土づくりや環境に配慮した取り組みを説明し、収穫体験した農産物を皆と一緒に食べたよ。参加者の方々が有機農産物への理解も深まったら嬉しいな。



農場の説明



有機野菜の説明



取れたて有機野菜のバーベキュー

IR活動報告

当社は、経営の透明性を高めるため、情報開示をはじめ投資家向け説明会を定期的に行っています。

- 2018年1月24日 (水) 機関投資家向け「2017年11月期 決算説明会」を開催
- 2018年7月24日 (火) 機関投資家向け「2018年11月期 第2四半期決算説明会」を開催

説明会資料は、当社ホームページ「株主・投資家情報」の「IRライブラリー」に掲載しておりますので、ご覧ください。

URL : <https://www.e-supportlink.com/ir/library/>

株主優待について

- 対象 毎年5月末日現在の株主名簿に記載、または記録された100株(1単位)以上の当社株式を保有されている株主様
- 内容 青森県産りんご100%ジュース 1リットル×3本
- 贈呈時期 毎年7月を予定



通販サイトからご購入いただけます

りんごの通販サイト
HAPPY HAPPY
"HAPPY HAPPY SHOP"

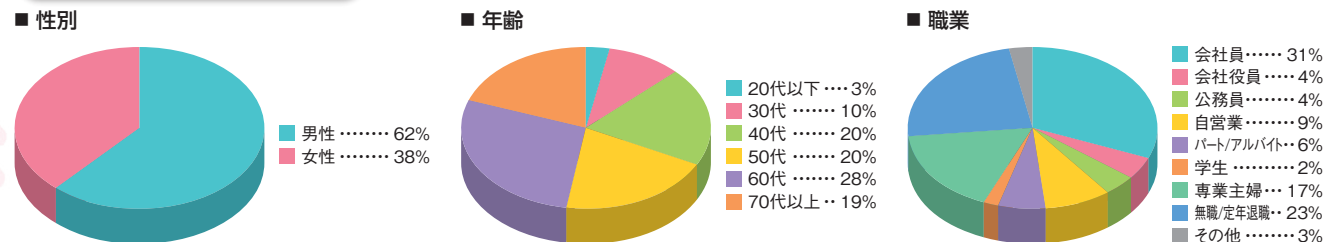
- ・「はっぴーはっぴ」で検索。
- ・イーサポートリンク(株)のホームページにもバナーを貼り付けています。

株主広場

株主さまアンケート結果報告

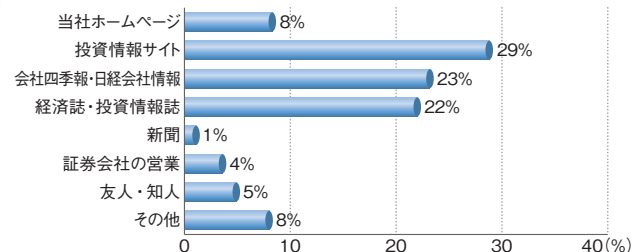
第20期「株主通信」の送付に関して、『株主さまアンケート』を同封し、当社の事業や株式に関するご意見を聞かせて頂きました。第20期末（2017年11月末）の株主様14,094名のうち、**5,503名**から返信を頂きました。返信率**39.0%**という高い関心をお寄せくださいましたこと、心より御礼申し上げます。当社では、株主様1人1人のご意見を真摯に受け止め、IR活動の参考とさせていただきます。今後とも、よろしくお願いいたします。

ご回答頂いた株主様の属性

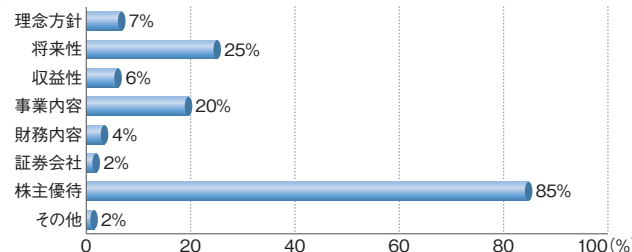


アンケート集計結果

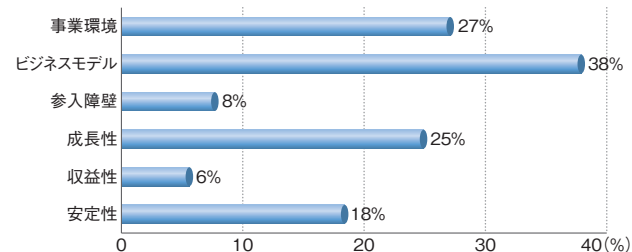
■ 当社の株式を購入する際に最も参考にした情報源は何ですか？



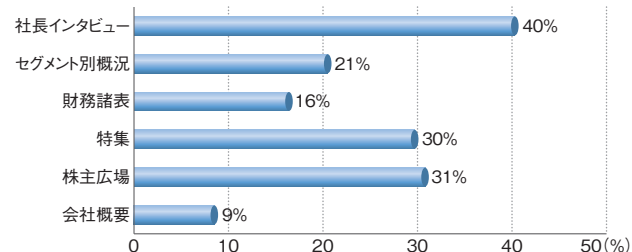
■ 当社の株式を購入された理由は何ですか？（複数回答）



■ 当社の強みはどのような点だと思いますか？（複数回答）



■ 第20期株主通信で良かったページはどれですか？（複数回答）



企業情報

（2018年5月31日現在）

会社概要

商号	イーサポートリンク株式会社 (英字商号 E-SUPPORTLINK,Ltd.)
本社所在地	東京都豊島区高田二丁目17番22号
設立	1998年10月6日
資本金	2,721百万円
従業員	222名（連結） 219名（個別）

役員

代表取締役社長	堀内 信介
取締役副社長	仲村 淳
取締役	森田 和彦
取締役	松丸 正明
取締役	深津 弘行
取締役	柴田 好久
社外取締役	村井 勝
社外取締役	関根 近子
常勤監査役	升田 和一
監査役	吉田 茂
監査役	細川 昌彦

株式の状況

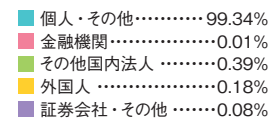
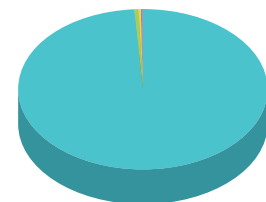
発行可能株式総数	10,700,000株
発行済株式総数	4,424,800株
株主総数	16,825名

大株主一覧表

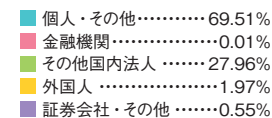
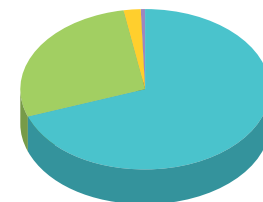
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ファーマインド	446,200	10.08
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	198,300	4.48
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	188,300	4.25
株式会社上組	166,700	3.76
東洋埠頭株式会社	111,100	2.51
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	105,000	2.37
イーサポートリンク従業員持株会	52,300	1.18
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	34,800	0.78
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	25,100	0.56
堀内信介	25,000	0.56

株式分布状況

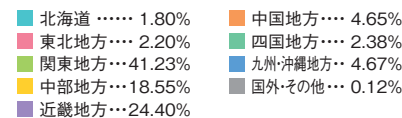
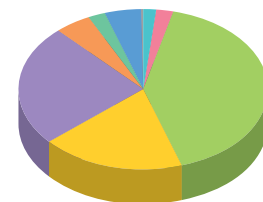
■ 所有者別株主数比率



■ 所有者別株式数比率



■ 所在地別株主数比率



株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
定時株主総会	毎年2月下旬
基準日	11月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に 口座をお持ち の場合	証券会社等に口座を お持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券 会社等になり ます。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱 店(住所変 更、株主配当 金受取り方法 の変更等)		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内 の店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店*
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全 国各支店(みずほ証券では取次のみとなります。)	

*：トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。

公 告 方 法 電子公告(当社ホームページ)
ただし、やむを得ない事由によって、電子
公告による公告をすることができない場合
には、日本経済新聞に掲載して行います。

住所変更手続きについて

当社株式関係書類及び株主優待等ご送付にあたり、ご引越し等により住
所が変更となられている場合、お手元に届かないことがございます。
住所が変更となる際は、大変お手数ではございますが、なるべく早めに
当社株式をお持ちの証券会社にて住所変更手続きをお願いいたします。

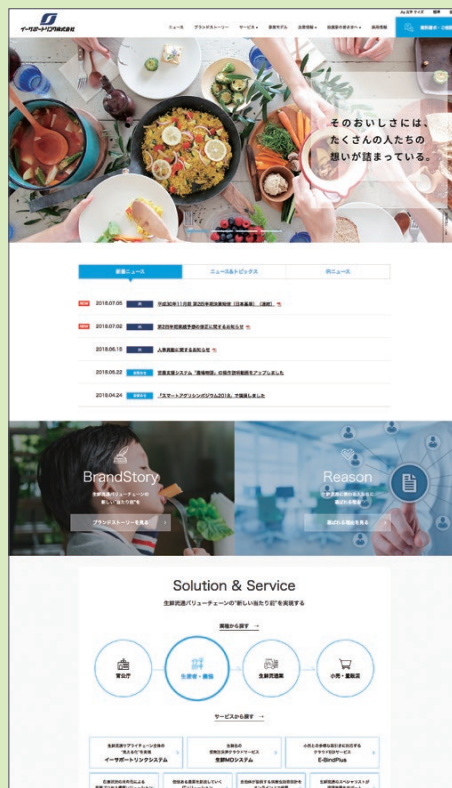
イーサポートリンク株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号
TEL：03-5979-0666 FAX：03-5979-0667

ホームページのご案内

当社では、「株主通信」ではお伝えしきれない情報をホーム
ページにて開示しています。株主・投資家の皆様に向けて、
決算情報、決算説明資料、PR情報など、タイムリーな情報提
供を心がけております。ぜひ、ご覧ください。

<https://www.e-supportlink.com/>



UD FONT

本文に見やすいユニバー
サルデザインフォントを
採用しています。

